

宅建ファミリー共済 保険代理店に聞く

24時間駆け付けに安心感

特別企画

東京都目黒区の東急東横線の学芸大学駅近くで2店舗を構える大丸。この地で創業し、今年で76年を迎える老舗不動産会社だ。長年にわたり、宅建ファミリー共済(東京都千代田区)の保険代理店を営む。日々、現場で顧客と接している同社の賃貸担当者、数多くの賃貸入居者向け

保険会社がある中で宅建ファミリー共済を選ぶ理由を聞いた。

◇ ◇
学芸大学駅西口から賑やかな商店街を4分ほど歩いた場

所にある本店と、同駅の目の前に立地する「駅前賃貸センター」を拠点とし、地元密着で売買・仲介や賃貸管理業務を手掛ける。管理戸数は約1600戸に上る。

入居者が鍵を紛失したり、給排水管やトイレが詰まった場合、応急処置のための専門業者を手配してくれるサービス。どちらも入居者にとって一刻を争う事態だけに、あらかじめ用意されていると助かるサービスだ。「24時間・365日対応してくれるので、入居者だけでなく、当社の賃貸管理部門からの評価も高い(川上氏)という。

商品性に加え、宅建ファミリー共済では、契約手続き方法を、インターネットだけでなくファクスでも対応しているのが特徴だ。代理店は自社の状況に応じて選択できる。大丸では現在ほぼ100%インターネットで手続きしているが、数年前まではファクスも活用していた。同社賃貸部の石田和義氏は、「ベテラン社員の中には、ファクスでの手続きのほつが慣れている人もいたので、併用できるのは代理店にとってありがたい」と話す。



左から石田和義氏、川上大将氏、伊東美恵子氏

鍵紛失時に専門業者手配も

渋谷駅にも電車で約10分という利便性の高いエリアで、賃貸物件の入居者の多くは社会人だ。同社営業部の川上大将氏は宅建ファミリー共済の保険商品について、「24時間ホームサポートサービスが付いているので、入居者にもより安心してもらえる」と、その必要性を指摘する。これは

また、同じく営業部の伊東美恵子氏も、「1万6000円(単身者、2年間)という保険料で、何かあった場合にしっかりとカバーされる内容なので、どの顧客にも提案しやすい」と評価する。実は伊東氏は以前、自身が賃貸住宅入居者だった際、不測の事態で保険金請求をしたことが

あったという。「その時に入っていた保険が宅建ファミリー共済だった。迅速な対応で助かった。自分が経験したからこそ、顧客にも自信をもって勧められる(伊東氏)。

こつした柔軟性があることも、長年、宅建ファミリー共済の代理店を続ける理由のようだ。